

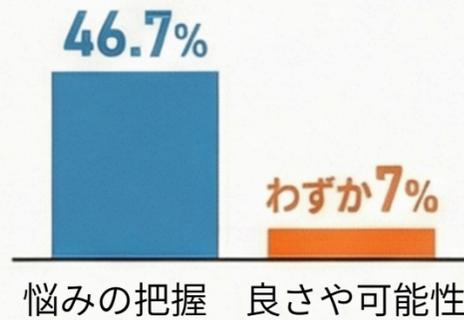
先生と子供の「心のズレ」を解消！定期相談を「子供のための時間」に変える視点

浮き彫りになった「教師」と「子供」の意識のズレ

定期相談は…
悩みを聞く場
子供が話してこそ
本音が聞きたい



教師の定期相談の目的



教師の46.7%が「悩み（悩み）の把握」に焦点を当てますが、子どもの「良さや可能性」に着目する教師はわずか7%に留まります。

教師は「問題把握」、 子供は「期待と緊張」

教師が「悩み（悩み）の解決」を重複する一方、子供は先生が「話を聞いてくれる」期待と「何を話せばいいか」という不安を同時に抱えています。



困っていることを話してみよう
(肯定的)
50.0%

何を話せばいいのかな
(困惑)
33.3%

小学校4年生

何を話せばいいのかな
(困惑)
57.2%

先生に何を質問されるのかな
(困惑)
51.6%

困っていることを話してみよう
26.6%

中学校3年生

学年が上がるほど増す「受動的な姿勢」

学年が上がるほど面談の主導権が教師にあると感じられ、悩みのある人のための場と感ぜられるようになります。

支援シートがもたらす「教育相談」のアップデート

「教師のための時間」から「子供のための時間」へ

児童生徒の見え方をもとに考え、教師自身の関わり方を振り返る意識を支えます。



心理的安全を支える「11種類のシート」



目的に合わせた多様なシートを活用することで、一対一の緊張感を緩和します。

非言語的な「サイン」への気づき



シートの使用により、教師が「定期相談はこうあるべき」から解放され、子供の表情や仕草に目を向ける余裕が生まれます。